

第1回北河内ブロック研修会

報告書

1 日 程 2022年6月3日（金） 15時～17時

2 会 場 天満別院 講堂

3 講 師 山口知丈 氏 （第9組 昭徳寺住職 前教区強化委員会 組教化推進部幹事）

4 参加者 37 名 （参加者のうちオンライン聴講3名）

5 テーマ 「出向く教化」とブロック別協議会への願い

6 研修会の趣旨

- ・ 「出向く教化」とブロック別協議会の位置づけの明確化
- ・ 北河内ブロック（第12,13,14,15組）内の各組の連携による教化活動の活性化
- ・ 崇敬寺院である天満別院と北河内ブロックの連携強化

7 講 義

7.1 「教化」とは何か？

(1) 「教化」とは

- ・ 法を聞くご縁にあずかった者が自身の感動体験を他者に伝えていく行為
- ・ 釈尊以来仏法が脈々と受け継がれていることが教化の「等流」
- ・ 人が法に触れるためには「法座」（聞法の間）や「同行」（その場に誘う人）を含めた「会座」が必要

(2) 親鸞における「教化」とは

- ・ 人間の言葉でありながらそこに弥陀の本願が流れているもの
- ・ 自説の流布ではなく法然上人より聞いた教えを念仏するなかまに伝えるもの

(3) 「教化」の目指すものとは

- ・ 縁ある人と共に教えを聞く場を作り出すこと

7.2 現在の大阪教区の教化体制

(1) 「出向く教化」

- ・ 各組・各寺の現場と教区教化委員会との乖離の打開策として発足
- ・ 組教化推進部の部員および実行委員が各組に出向いて教区の活動情報を伝え、また各組より情報を収集していく体制

(2) 「ブロック別協議会」

- ・ 「教区改編」の際の北摂ブロックでの集会を発端として、ブロック会の有用性が確認され、大阪教区の各ブロック内の組と組が情報交換しうる場として「ブロック別協議会」が発足

(3) 「出向く教化」とブロック別協議会にかけられた願い

- ・ ブロックという地縁と大阪教区という地縁が法縁へと展開し、聞法のを生み出していくこと

8 パネルディスカッション

コーディネーター： 第15組西称寺の宮部渡

パネリスト： 講師 山口知丈氏、第13組願乗寺の田中寛子、第15組泉勝寺の小松肇

(1) 講義についての感想と質問

- ・ 住職や寺族の側に門徒の方を教え導く責任があると考え、「教化者意識」にとらわれて焦り悩んできた経験がある。(田中、小松)
- ・ 講義で「教化」の目指すものは『大無量寿経』の会座に連なることだと述べられた内容について詳しく知りたい。(田中)
- ・ 組教化推進部の「出向く教化」の活動で第12組の門徒報恩講に参拝し、門徒の方が主体となった「教化」を目の当たりにして感銘を受けた。(小松)

(2) 山口知丈氏の返答

- ・ 「教化」は教説から始まるのではなく、自身の生活者としての悩みや問題を門徒の方々と話し合うところから出発する。それが同座の対話であり、『大無量寿経』の会座である。
- ・ 現代まで続いている岡崎教区のお講や第9組の「真宗にたずねる会」のような門徒主導の「教化」活動は非常に活気があり、「教化」を門徒の方にも委ねていく今後の取り組みが必要である。

9 研修会の成果と所感

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大による2度の開催延期を経て、天満別院 武宮信勝輪番、同院職員、大阪教務所 王来王家純也氏（駐在教導）ならびに各組長のご尽力によりこの度ついに研修会実現の日を迎えた。

- ・ 山口氏の「教化」についてのご説明により、「教化」活動をする時に必ず立ち回り確認すべき原点を学ぶことができた。
- ・ 今後の北河内ブロック協議会においても、門徒と住職や寺族のみならず一般の方も含めたあらゆる人を対象とする「教化」のあり方について考えていきたい。

以上